

# 学園都市を育てる

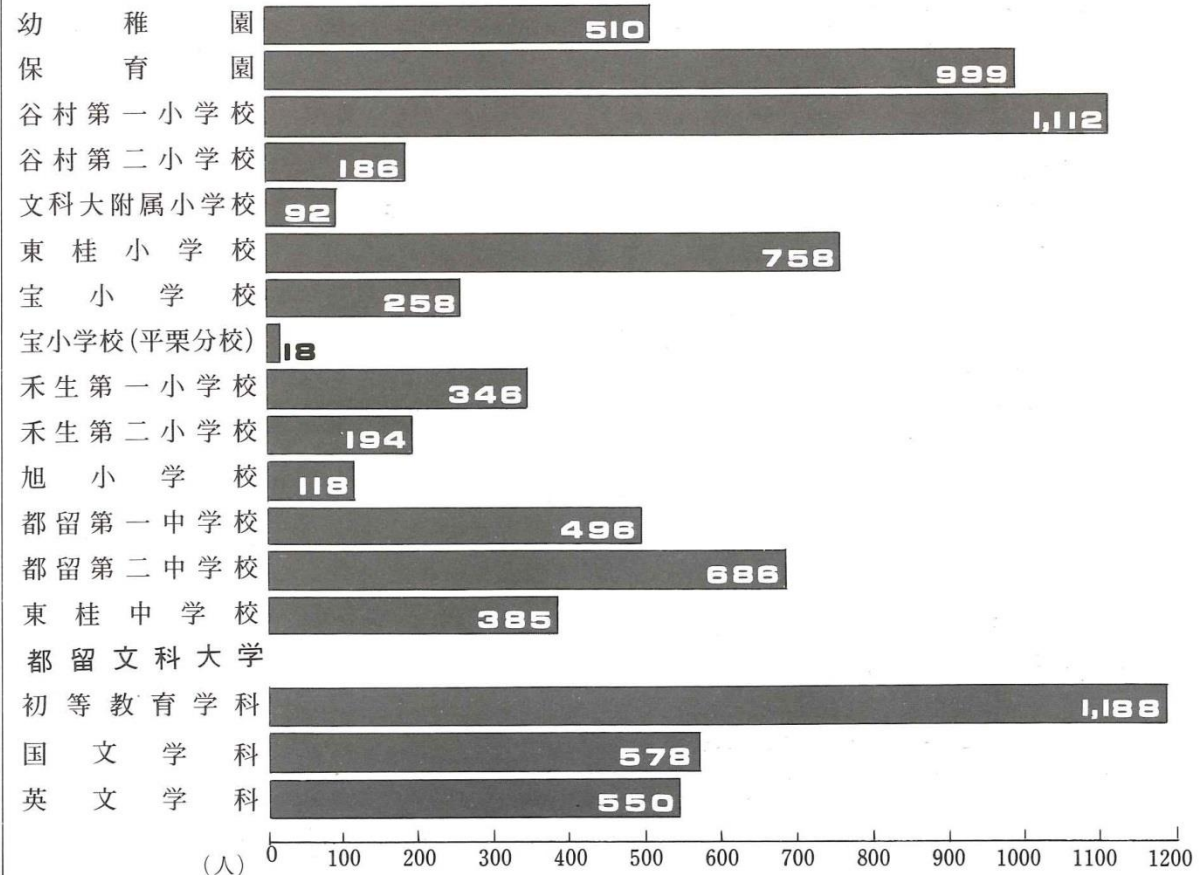
年 表	
29. 6. 25	谷村第二小学校校舎完成
29. 7. 26	都留市連合婦人会結成
29. 8. 2	都留市体育協会発足
29. 9. 18	市立図書館設置
29. 9. 19	第一回市民体育大会開催
30. 3. 31	禾生第一小学校校舎建設(第一期)工事完成
30. 4. 1	都留短期大学開校
30. 7. 22	夏期大学講座開講
30. 11. 3	第一回都留市文化祭開催
32. 6. 1	都留市文化協会発足
32. 6. 5	都留市青年団連絡協議会結成
33. 11. 2	第一回市民大運動会開催
35. 4. 1	都留文科大学開学
35. 7. 25	旭小学校校舎完成
36. 10. 1	谷村第三小学校校舎完成
37. 9. 29	谷村第一小学校校舎建設
38. 4. 15	都留市民会館完成
38. 11. 1	谷村第一小学校校舎建設(第二期工事)完成
39. 11. 25	谷村第一小学校校舎建設(第三期工事)完成
40. 4. 1	谷村第三小学校を都留文科大学附属小学校に校名変更
40. 4. 1	市内中学校5校を3校に統合整備
40. 5. 20	都留文科大学新校舎第一期工事完成
41. 8. 31	都留文科大学新校舎建設第二期工事完成
41. 9. 30	谷村第一小学校校舎建設事業完成
43. 12. 25	都留第二中学校校舎建設事業完成
45. 10. 5	都留第一中学校校舎建設完成
47. 2. 20	都留第一中学校特別教室完成
47. 8. 10	都留文科大学体育館完成
48. 11. 27	尾県郷土資料館完成(旧尾県学校)
48. 12. 5	市民グラウンド球技場完成
50. 4. 1	都留市奨学金貸与制度発足
50. 7. 5	東桂小学校新校舎完成
50. 7. 19	都留文科大学公開講座開催
50. 10. 30	都留市文化会館完成
51. 1. 30	禾生第一小学校屋内運動場完成
51. 8. 27	東桂小学校校舎管理棟完成
51. 11. 13	都留市郷土研究会設立
52. 8. 1	東桂中学校校舎完成(第一期)
52. 9. 6	都留文科大学附属図書館完成
53. 7. 5	社会教育会館完成
53. 8. 18	禾生第二小学校建設予定地造成工事完成

## 教育尊重の伝統

本市は、昔から南都留郡、北都留郡地方の産業・文化の中心地として発展し、明治末期には、甲府に次いで繁栄を極めたところです。産業の面では、甲斐絹の集散地として京都、大阪方面との取引が盛んであった影響をうけ、文化面は特に発展し、また教育面では、寛永10年、秋元但馬守泰朝が谷村城主となって以後、家中子弟の教育に意を注いだ結果、一般人士もこれに影響され、教育の普及するところとなり、以後幕末に至るまで多くの私塾が開設され、遠く甲府地方からも遊学するものを加えて、郡内における教育の中心でした。現在も市民が教育に強い関心をもち、教育機関の整備充実に努めるのも、このような伝統があるからです。

都留文科大学の建学も、教育尊重の伝統に根ざしたものであり、全国的にも有名なこの大学を中心に、学園都市としての形成が、着実に進められています。

幼稚園・保育園・小中学校・文科大学生数 (昭和54年度)





都留文科大学の全景

### 幼児教育に2幼稚園

市内には、私立の青藍幼稚園（学校法人）と、ひまわり幼稚園（学校法人）があります。青藍幼稚園の設立は明治39年で、52年10月に467㎡の新園舎を新設し、定員を200名に増員しました。

ひまわり幼稚園は39年の設立で、設備も近代的幼稚園として順次整備しており、現在定員は320名です。

### 小・中・高校教育

市内の学校教育施設は、市立の小学校8校（分校1）、中学校3校、大学1校があり、このほか私立幼稚園2、県立高等学校2校と、一応各過程における教育機関は、整っています。これら教育施設整備は、41年に谷村第一小学校、43年に都留第二中学校、48年に都留第一中学校、50年に東桂小学校、52年に東桂中学校（第1期）、53年度には宝小学校の校舎改築に着工、このほか屋内運動場、プールの施設も着々と進められています。なお、

学校給食は52年度までは、未実施校が1校あったが、53年度より中央学校給食センターの建設により、市内小・中学校全校が完全給食実施となりました。県立谷村工業高等学校は、職業課程の高校で、生徒数893人中507人が、市内居住です。県立桂高等学校は、生徒数1,064人、その82%の887人が市内居住です。普通科のみで女子の在校生が65%をしめています。

### 都留文科大学の沿革

都留文科大学の歴史は、大きく3つの時期に分けることができます。第1の時期は、昭和28年4月小学校教員養成のための県立臨時教員養成所として、上谷264番地に1年制、定員50名で発足した時代であります。第2の時期は、それが発展的解消をし、昭和30年4月市立都留短期大学として、同地に初等教育科入学定員50名、商経科入学定員50名で新しく開学した時代であります。そして第3の時期は、昭和35年4月、4年制に昇格し、都

留文科大学と改称されてから現在までの時代です。なお昇格時初等教育学科と国文学科の2学科であったものが、昭和38年4月に英文学科が増設され、初等教育、国文、英文の3学科からなる今の組織が整いました。この時は、入学定員180名でしたが、昭和41年4月に300名となり、同年10月に田原三丁目8番1号に新校舎が完成、その後施設の整備拡充に努め、昭和46年4月には現在の400名となり今日に及んでおります。昭和54年1月現在の学生数は2,300名、卒業生は8,000名に達し、このうち90%近くが小・中学校並びに高等学校等に就職し、その誠実さは、高く評価されております。このように発足以来、教育系大学としての伝統を自負し、有能な教員の養成にその実を挙げ、特異な公立大学として、社会的にも重要性を増すなかで、年々発展を続けております。

# 伸び伸びと市民生活

学校教育・社会教育を通じて人間味と創意ある人づくり



都留市文化会館

文化会館（図書館、中央公民館）を中心とし、生涯教育的な見地  
にたって、幼児から老人にいたる社会教育事業を実施し、市民の教  
養の向上と、豊かな人間性の育成を図っています。最近では社会教育  
への関心が高まり、学級開設、参加希望も増加の傾向にあります。  
また、社会教育関係団体の活動も年々活発となってきており、市民の  
自主サークルや研修団体の結成も図られ、社会教育への関心が年々  
深まっています。

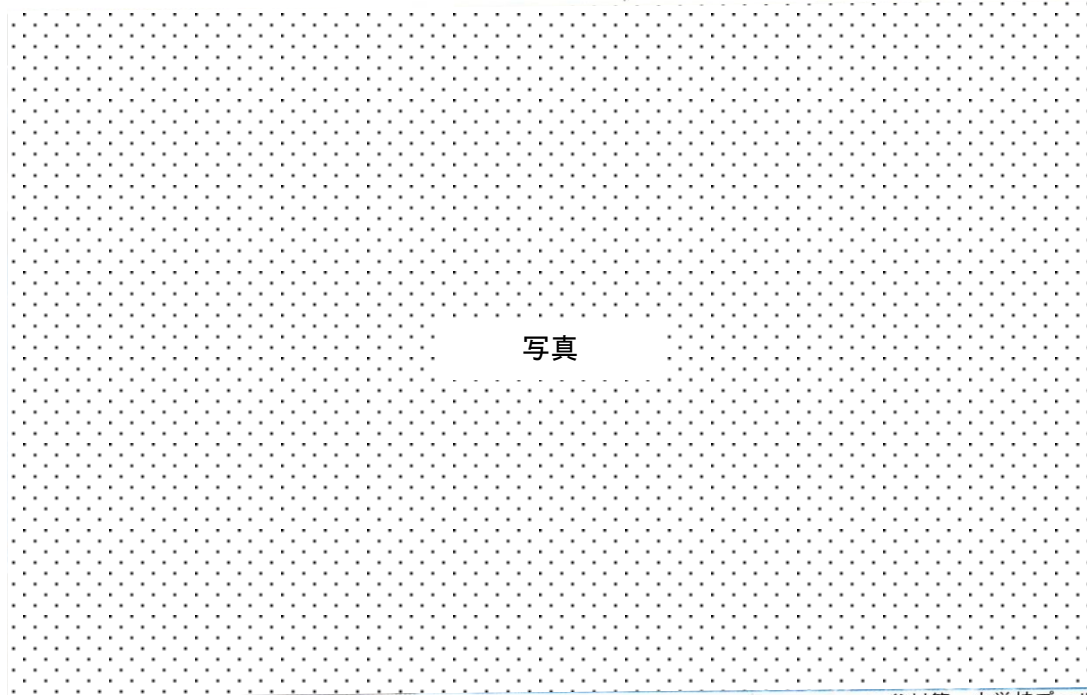


毎年秋を飾る文化祭

### 青少年を健やかに

青少年教育は今日的課題です。事業、活動の活発な推進のための指導者の養成と確保、そして青少年の活動する場としての広場、野営研修施設が完備される必要があります。ま

た、団体活動を奨励し、集団活動をとおして、社会性、人間性の育成が必要であり、地域集団活動を活発にし、地域帰属意識を高めるため、育成会の指導者の養成と活動の積極的な展開を図っています。



写真

谷村第一小学校プール



中央学校給食センター



秋の体育祭



東桂小学校校舎

# 文化・体育活動が盛ん

年間を通じて全市民的なたくさんの行事

## 地域ぐるみの非行防止

非行の一般的傾向もますます顕著となってきました。刺激的な出版物や映画などのはん濫、家庭や学校、職場における人間関係の希薄化、地域における住民の連帯感の喪失傾向など、青少年にとって好ましくない生活環境に影響されるところが少なくありません。非行防止については、地域ぐるみによる対応が必要で、市では32年青少年対策本部を設置、



野外子ども図書館

43年青少年育成推進員を各地区に設置、青少年のための市民会議他関係団体による組織を整備しました。また、同年9月には青少年問題に関する相談、指導にあたる青少年カウンセラーを設置する等、組織をあげて環境浄化と取り組み、愛のパトロール、防犯灯の設置、映画会、育成会親善大会等の事業を推進しています。



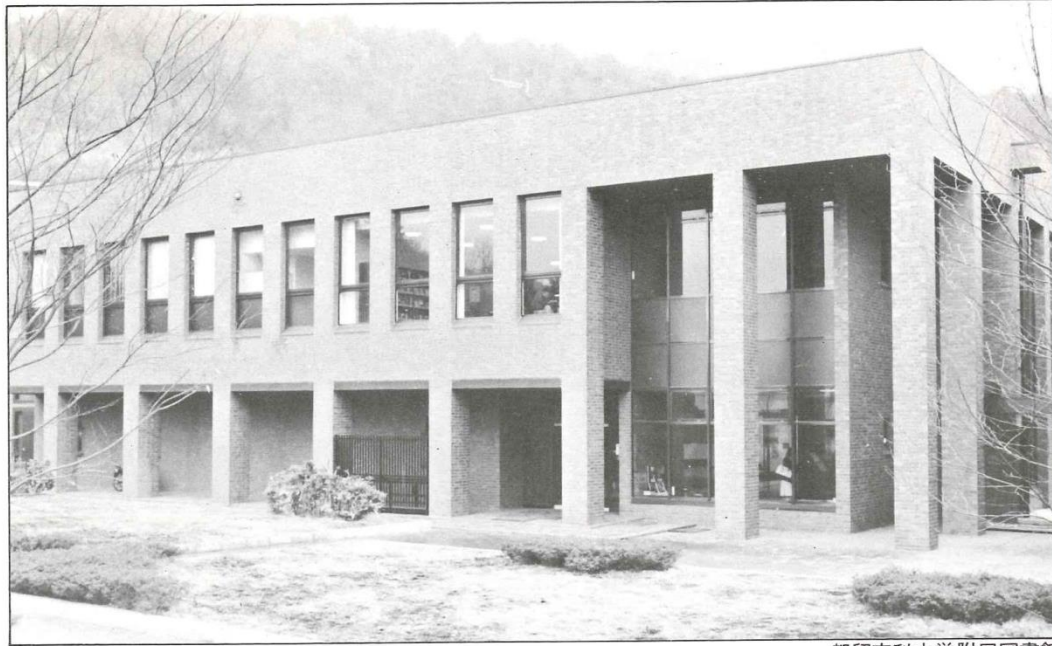
## 年々盛ん社会体育

社会、経済の急激な変化や科学技術のめざましい進歩により、私たちの生活は大きく変わっています。体育・スポーツ活動は住民の生活や人間関係を豊かにするとともに、健康で文化的な地域社会を形成していく上で重要な役割を果たしています。自主的に日常生活の中に体育・スポーツ活動を取り入れようと、市民の体育・スポーツ、レクリエーション活動に対する関心は大きく高まっています。

大学を広く市民に開放し、市民生活とも結びついた大学でありたいと、昭和50年から始まった大学公開講座。毎年の講座には、多くの市民が参加しています。

## よき市民づくりに重点

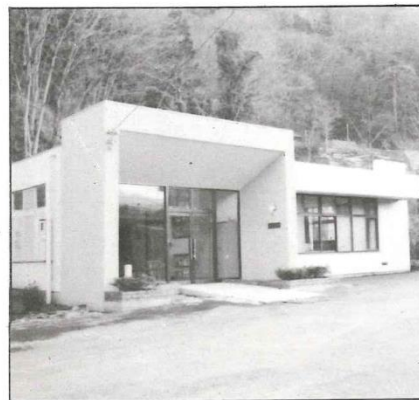
これからの社会教育への期待は大きく、学校教育とともに「よき市民づくり」に重点をおいています。市民生活の向上に伴う多種多様な要望に対処するために、全公民館が活発な活動を展開する必要があります。地区公民館の建設、地域集会施設の建設推進も積極的に進め、文化都市「都留市」にふさわしく、美術館の建設も望まれます。



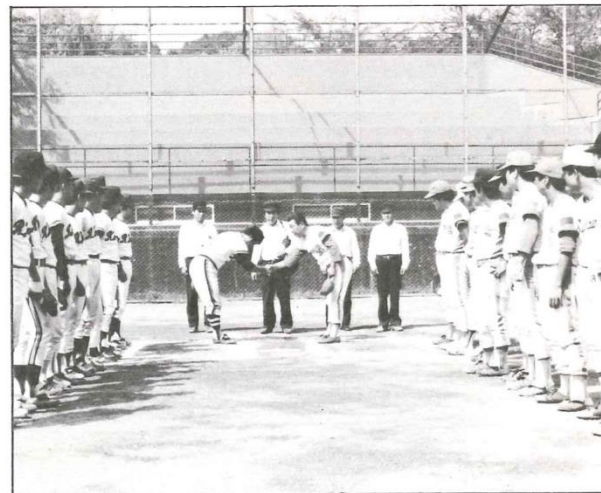
都留文科大学附属図書館



市民会館



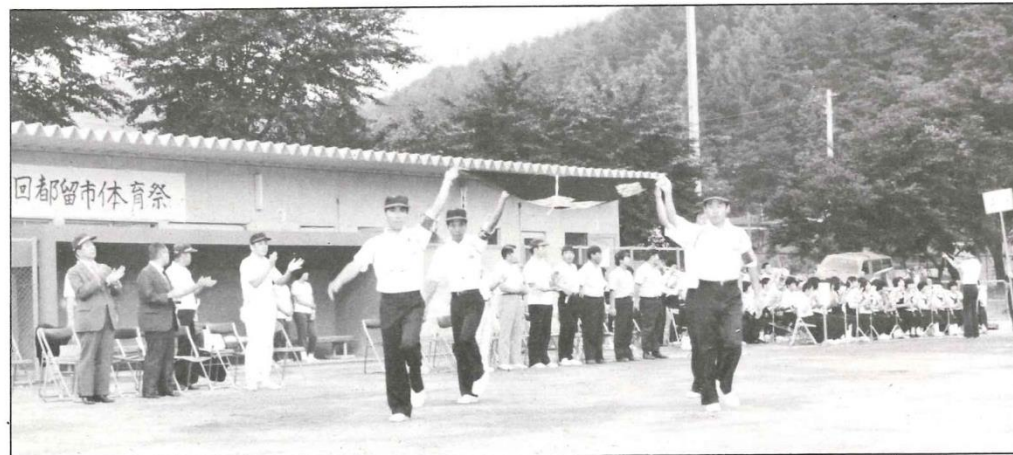
社会教育会館



野球大会



公民館まつり



にぎやかに体育祭



市民合唱団